

平成24年度

施策評価マネジメントシート(平成23年度の実績評価)

記入年月日

平成 24 年 6 月 28 日

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	土生都 信輔
302	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	市民	①桜川市人口		人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,469	42,920
実績値					46,575	45,673	45,105					
見込値												
実績値												
見込値												
実績値												
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	生涯にわたって自ら学ぶ、学びあう	①日頃学習活動をしている市民の割合	%	目標値			25.5	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0
実績値				25.2	23.5	22.3						
②生涯学習活動を通じて学びあっている市民の割合		%	目標値			42.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0	
			実績値	45.0	36.8	52.9						
目標値												
実績値												
成果指標設定の考え方	○生涯にわたって自ら学んでもらう、学びあうの成果指標は、①「日頃学習活動をしている市民の割合」、②「学習活動を市民同士で学びあいをしている市民の割合」(日頃学習活動をしている市民の中で)をアンケートにて調査。											
成果指標の把握方法と算定式等	○①対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○②生涯学習活動を通じて学びあっている市民の割合は、アンケートの「桜川市民に教えている」と「桜川市民から教わっている」の計。											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○生涯学習や文化活動に積極的に参加し、知識・見聞を深める。 ○市民講座等の講師となり、市民同士の学びの輪を広げる。	○生涯学習や文化活動施設の充実や生涯学習情報の提供により、市民の学習・文化活動を支援する。 ○各種広報活動や文化講演会の開催により、市民の学習・文化活動に対する意識啓発を図る。 ○市民同士の学びの輪を広げるため、市民講座の講師などの人材を育成・確保する。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○余暇を利用して学習活動する部分があるので、景気の影響を受ける。 ○生涯学習、文化活動の拠点として整備された真壁伝承館の利用ができるようになり、活発な活動につながると考えられる。 ○現在活動している市民が高齢化している。 ○文化協会では、子どもたち(出前教室)を取り込む取組みを実施している。 ○活動をマンネリ化している現状もある。講座を企画募集しても集まらない。結果従来型の講座となる。	○市民アンケートの満足度、優先度調査の結果、満足度はやや高く、優先度は低い位置となっている。 ○自主講座を行う会場が少ないとの意見がある。(団体数が増えている現状がある。)

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①生涯学習及び芸術文化活動機会の充実	市民	学習の機会が充実している	指定講座の数(自主講座以外)	実績値							
				講座	35	25					
②生涯学習及び芸術文化活動の促進	市民	学びあう	自主講座数	実績値							
				講座	148	148					
③生涯学習・文化施設の充実	市民	利用しやすい	施設の稼働率	実績値							
				%							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	22年度実績	23年度実績	24年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	20	38	38
②施策事業費(一般財源以外)	千円	30,134	424,616	1,220
③施策事業費(一般財源)	千円	36,301	80,923	84,228
④施策事業費の計(②+③)	千円	66,435	505,539	85,448
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	9,208	40,807	40,734
⑥計(④+⑤)	千円	75,643	546,346	126,182

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	図書館整備事業	後期基本計画主要事業
事務事業	市民文化祭事業	H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位

施策番号	302	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	主管課	生涯学習課
------	-----	-----	----------------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・日頃学習活動をしている市民の割合は、19年度は、25.9%、20年度26.5%、21年度25.2%、22年度23.5%、23年度22.3%であり、20年度をピークに若干低下している。その要因は、景気の低迷などにより、余暇の時間を生涯学習に取れないことも考えられる。</p> <p>・市民同士で学びあいをしている割合は、20年度46.0%、21年度45.0%、22年度36.8%、23年度32.9%と、22年度は落ち込んでいたが、23年度は上昇した。22年度は、真壁伝承館の施設の建て替えに伴い、使用できなかったことが要因と思われる。個人的に学習をしている市民同士がグループを組織化し、情報交換をし学び合っている傾向にあるが、22年度の減少及び23年度の増加の原因は不明である。</p> <p>・地区別に見ると、学習活動をしている市民は、岩瀬地区22年度23.4%、23年度22.8%・真壁地区22年度22.6%、23年度21.0%・大和地区22年度24.6%、24.7%となっており、大和地区が前年と変わらなかったが、岩瀬・真壁地区で若干減少した。</p> <p>・年齢別にみると、20代が22年度25.0%、23年度29.3%、30代22年度15.2%、23年度20.0%、40代22年度23.2%、23年度21.8%、50歳代が22年度16.6%、23年度21.9%、60歳から64歳が22年度26.2%、23年度19.0%、65歳～74歳が22年度26.0%、23年度24.9%、75歳以上が22年度27.8%、23年度27.0%となっている。30代～50代が他の年代より低いのは子供の学校内外での教育に拘束されるため、自己の生涯学習活動の時間が少なくなるためと思われる。</p> <p>・生涯学習講座数(指定講座)については、29講座実施しているが、地区別に見ると岩瀬地区12講座、真壁地区7講座、大和地区10講座である。</p> <p>・生涯学習講座数(自主講座)については148講座実施している。地区別に見ると岩瀬地区が103講座、真壁地区28講座、大和地区17講座となっている。岩瀬地区の講座数が前年より、16増加しているのは、農村改善センターで活動している講座(カオク教室)が増加したためである。また、他地区より多いのは、公民館における研修室が充実しており、学習機会が比較的多いこと、また、従来から定期講座が多くあり、講座がきっかけのサークル活動も増えていったためと思われる。また、受講者が固定化してきている面がある。</p> <p>・文化協会加入団体は60団体、高齢化に伴い退会する団体も多いが、公民館の自主講座から加入した団体もあり、横ばいである。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①日頃学習活動をしている市民の割合は、23年度目標値25.5%に対し22.3%と3.2ポイント下回った。</p> <p>②生涯学習活動を通じて学びあっている市民の割合は、23年度目標値42.0%に対し52.9%と10.9ポイント上回った。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・生涯学習活動をしている市民の割合は桜川市の22.3%(平成23年度)に対し、近隣の市で見ると、真岡市26.4%(22年度)、守谷市37.2%(22年度)、佐野市22.6%(22年度)となっており、真岡市、佐野市と比べると若干低い。</p> <p>・他市では、文化活動に対する賞を設けている場合もある。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・生涯学習活動をしている市民割合は、前年度比1.2ポイント減少したことは、市民の文化活動・学習活動意欲は高いものの、中央公民館等の各種施設の老朽化もあり、市民の要望に十分に答えられていない点があると思われる。</p> <p>・市民文化祭について、一市一文化祭を望む声も聞かれるが、高齢化や会場アクセス等の問題が出ておりなかなか進まない。数年前にシャトルバスの手配を講じたこともあるが、利用率はほとんどなかった。市民文化祭に対する考え方が、各自、各団体により様々であり、単なる作品発表の場とらえている市民・団体が多く、まだまだ、他市町村の出品作品と比較するとレベルは低い。今後は県芸術祭公募展に出展するなど、作品のレベルアップにつながって事業を展開していかなければならない。</p> <p>・後期総合計画策定時におけるアンケート調査では、この施策の満足度はやや高いが、優先度は平均よりかなり低く、現状維持項目となっている。各種事業に参加している市民は満足しているが、学習活動をしている市民が少ないと理解できる。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>23年度は、生涯学習・芸術文化活動に取り組んでいる人に対して、「学習の機会が充実している」「施設を整備する」を目標に重点的に取り組んだ。</p> <p>・貢献度評価の結果では、貢献度の高かった事務事業は、「真壁伝承館建設事業」、「真壁伝承館(中央公民館)施設維持管理事業」、「こども伝統文化教室」であった。</p> <p>・「真壁伝承館建設事業」は、都市公園の形状変更に係る都市計画の変更、敷地内発掘調査、施設工事の発注、施設工事の監理業務遺構整備設計を実施した。</p> <p>・「真壁伝承館(中央公民館)施設維持管理事業」は、既存施設の取り壊し、発掘調査、施設工事の監理、遺構整備。</p> <p>・「こども伝統文化教室」では文化協会団体が主催し、茶道・華道・将棋・俳句などの日本の伝統文化や民俗芸能の後継者育成に寄与された。「こども伝統文化教室」は、</p> <p>・「市民文化祭事業」は第7回目を迎えたが、各支部同時開催という形式で行われた。真壁地区の会場が立て替えのため、大和地区と合同開催したが、児童生徒作品展も併設したことで、家族連の来場者数も増え、様々な鑑賞ができた。出品者・参加者が高齢化するなか、市内の園児や小中高校の生徒や福祉施設、一般の参加者も増え、市民文化祭としての賑わいを呈してきた。市民文化祭の資質向上のため、市内一箇所開催が望まれるが、高齢化、会場へのアクセスなど課題も多い。</p> <p>・「放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)」、放課後における子ども達の安全で健やかな居場所を提供し、地域の方々の協力のもと各種教室を開催し、その成果を上げている。</p> <p>・「高齢者学級事業」は「楽しく元気にはつらつとした生きがいづくり」を学習テーマに各種教室を開催しているが、参加希望者が多く人数制限をしなければならないほど学習意欲が高く、心豊かで健康増進に努める事に貢献した。</p> <p>・平成23年7月の多目的複合施設の竣工後には、多くの市民が公民館・生涯学習活動、文化財の保護、振興並びに地域住民のふれあいの場として活用されることが期待されます。</p>
-------------	---

8. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策全体	生涯学習活動をしている市民の割合が1.7%減少している要因の一つとして、各施設の老朽化が上げられるが、23年度に多目的複合施設が完成することから、市民の半数が何らかの学習活動をする状況を目指す。また、新たな施設を有効に活用できるようなソフト面の基盤整備が必要である。さらに、30・40歳代の子育て世代に対しても、「家庭教育」関係の学習活動をサポートする必要がある。	<p>・子どもから高齢者までだれもが自ら学び、その成果を活かせるよう、生涯学習の施設整備・機能を充実させるとともに、公民館講座や自主活動等の機会拡充、地域の関連団体の育成等に努めます。</p> <p>・芸術、文化活動については、既存の文化施設や地区公民館等を活用し、市民の活動を支援するほか、国内外の音楽・演劇等の芸術活動にふれる機会の充実にも努めます。</p> <p>・市民の芸術・文化活動に対するニーズの高まりに対応し、拠点となる施設の整備を検討します。</p>
基本事業	①生涯学習及び芸術文化活動機会の充実	市民や地域並びに生涯学習団体、芸術文化団体等との連携の中で、子育て世代をはじめ、様々な年代の市民ニーズに応じた講座・教室・イベントを開催し、市民が自ら学びたい環境づくりを推進します。また、芸術文化活動の成果発表の機会を提供するとともに、優れた芸術文化に触れる機会を充実します。
	②生涯学習及び芸術文化活動の促進	各種生涯学習団体、芸術文化団体等との連携により、一緒に学ぶ仲間づくりや自主的な活動を促進します。また、文化祭など芸術・文化活動などの成果を市民が発表する機会を開催し、個々の活動の情報発信を行い、市民の芸術文化活動に対する意欲を高める取り組みを支援します。
	③生涯学習・文化施設の充実	図書館の整備・生涯学習施設の整備を進めるとともに、図書システムの導入や学習相談・支援体制を充実させ、生涯学習情報の一元化や施設の有効活用を図り、市民の利便性向上に努めます。